

十月のテーマ

経営者も家庭人



え・小島サエキチ

夫が先 経営者が先

男 性経営者の皆さんは、奥様に呼ばれたら、「ハイ」と

元気な返事をしておられますか。ご子息に呼ばれた場合も、同様に返事をしてはいかがでしょうか。

さらに、空返事ではなく、頼まれたことは即、実行に移していただきますか。

では、次のような場合はどう対応しているでしょうか。

①わが家の便所にトイレトペーパーの芯だけが置き去りにされていた。②玄関の靴がバラバラで、今にも靴が逃げ出しそうな状況に出くわした。③洗面所に娘が落とした髪の毛が散乱していた。④夕食後の台所に茶碗がそのままになっていた。⑤トイレや風呂が汚れていた。⑥家庭ゴミや資源ゴミが溜まっていた。

今週おすすめたのは、こうした場合、家庭内において誰がやるかを決めるのではなく、気づいた人が、気づいたことをさわやかに的確に処置するという実践です。

例えば、トイレトペーパーの芯が残っていたら捨てる。靴は揃

える。洗面所の髪の毛はティッシュで拭き取る。食器は洗う。汚れているところは掃除する。ゴミは出す。そして、心を曇らせることなく、実行後は何事もなかったように朗らかに過ごすことです。「誰が汚したんだ?」とか「なぜ誰もやらない」と、犯人探しをしたり、責めたり、嫌々行なつては意味がありません。

もちろん、家庭内での約束事として役割を確認し合ったり、躰として子供を教育することは必要です。とはいえ、すぐに改善できない場合もあるでしょう。その時は、自身の倫理実践のチャンスと捉え、果敢に挑み続けたいものです。こうした取り組みは、即行の実践、順序を正しく行なう実践と捉えることができるでしょう。

順序については次の通りです。言うまでもなく、男女は同等であり、同権であり、平等な存在です。相対した同士が合一することで生成発展(うみだし)はなされま

親である前に、先ず子である「子の倫理」をまもる。父母の意見が異なる時には父に従う(父が先)。

親の子にして、後に妻の夫。故に妻と親と意見の異なるときは、親に従う。そして、妻の夫にして、子の親である。『丸山敏雄全集』八巻「夫の倫理」

先が偉くて後が卑しいということはありません。先後の秩序を守ることが幸福・発展の鍵であることとを確認したいものです。

会社においては経営者が先、従業員が後です。ということは、挨拶をするのも経営者が先ということになります。これを先手の挨拶といい、経営者と社員の一体感を生む清き実践です。

夫婦においては夫が先、妻が後です。ゆえに、挨拶をするのも夫からであり、親愛の情に燃えてやさしくする夫の先じた実践によって、和やかな家庭は築かれていくのです。

今週は、男性目線で記しましたが、女性の方もこれに準じて応用してください。